3/4 土 朝

# 国連憲章守れ 声結集

## ロシア非難決議

## 事務総長「対話と外交の扉開け」

「国連総会のメッセージは大きく、明確だ。今すぐウクライナでの敵対行為をやめよ。今すぐ銃撃を止めよ。対話と外交の扉を今すぐ開けということだ」

国連総会の緊急特別会合が2日、ウクライナを侵略するロシアの蛮挙を厳しく非難する決議を採択した後、グテレス事務総長は高らかに宣言しました。

### 一斉に拍手

ロシアの国連大使は採決前の発言で、「この決議案は、われわれの軍事行動の終了にはつながらない」と語り、あくまで侵略を正当化しました。各国代表が真剣な表情で見守る中、会議場のスクリーンに「賛成141」が表示されると一斉に拍手が湧き起りました。

決議案の共同提案国は96カ国。賛成は国連加盟国193カ国の73%に達しました。2014年のロシアによるウクライナ南部クリミアの編入を認めない決議（賛成100）よりはるかに多い支持を得ました。

決議は、「諸国家間の法の支配を促進するうえで国連憲章が核心的役割であることを再確認する」などと強調。ウクライナ（国際的に認められた国境線）からのロシア軍の即時・無条件の撤退を求めました。

反対はロシアと同盟に協力するベラルーシ、そしてシリア、北朝鮮、エリトリアのみ。討論で北大西洋条約機構（NATO）批判を展開し、ロシアを擁護したキューバや、ロシア支持を明確にしているベネズエラも、反対はしませんでした（投票不参加）。

3日間にわたった会合の討論では、ほとんどの国がロシアの侵略行為を批判。2月末の安保理で同様の非難決議案を拒否権で葬り去ったロシアは、総会の場で圧倒的な反対の声を浴びることになりました。

「国連創設者と国連を支持するもの全てにたいする侮辱だ」（シャヒド総会議長）、「ウクライナが生き残らないなら、国際的な平和も国連も生き残らない！」（ウクライナのキスリツァ国連大使）―。議場では、「帝国主義と覇権主義の復活」だとプーチン政権への非難があふれました。

同時に、各国代表が特に強調したのは、戦後の世界の平和秩序が根底から覆されようとしていることへの深刻な懸念と「国連憲章や国際法」の重要性でした。

「国連が、その創設の基礎となっている価値と原則をまもれるかどうか試されている」（クウェート国連大使）、「第2次世界大戦の終結にあたり、平和と安全を維持するために国連が創設された。国際法や秩序の平和解決などにもとづく秩序をロシアが乱暴に攻撃している」（ドイツ外相）などの発言が、欧州、アジア、アフリカ、南北アメリカの諸々から相次ぎました。

大国ロシアの小国への侵略を受けて、「力は正義だという国際秩序は小国を危険にさらす」（シンガポール国連大使）など人口の少ない小国、島しょ国の代表が国連憲章違反の侵略を糾弾しました。

### 核の廃絶を

各国の怒りをさらに高めたのは、プーチン大統領による核兵器使用まで示唆する威嚇発言でした。各国代表はこうした暴論を厳しく批判。アルゼンチンの国連大使は「国際社会は核兵器の完全廃絶を固持して活動しなければならない」と発言しました。今回の国連総会は、「核兵器のない世界」を一刻も早く実現する必要性も改めて示すものとなりました。

（ワシントン＝遠藤誠二）

国連総会の緊急特別会合でロシア非難決議採択後に発話をするウクライナ代表団 (UN Photo by Felipe)

## 戦後の平和の国際秩序 根底から覆す

### ロシア非難決議のポイント

【前文】

一、ウクライナ領土でのロシアによる侵略作戦は欧州で過去数十年見たことのない規模で、緊急の行動が必要。

一、ロシアによる核戦力態勢強化の決定を非難する。

【本文】

一、国際的に認められた国境内でのウクライナの主権と独立、領土保全へのコミットメントを再確認する。

一、国連憲章違反のロシアによるウクライナ侵攻に対し、最も強い言葉で遺憾の意を表する。

一、ロシアに軍部隊の無条件の即時完全撤退を要求する。

一、ウクライナの「ドネツク」、「ルガンスク」地域に結び（独立承認の）決定を取り消すよう求める。

一、ベラルーシのウクライナに対する違法な武力行使への関与に遺憾を表する。

一、ウクライナ侵攻に関する緊急特別会合は一時的に休会とし、加盟国の要請で再開される。（ニューヨーク＝時事）

# ノーベル受賞者165人書簡

## 戦争 何も生み出さない

世界各国のノーベル賞受賞者165人が、ロシアによるウクライナ侵略を非難し、ウクライナ国民と、その自由と国家の独立を支援すると訴えた公開書簡を発表しました。

プーチン大統領を名指しして「ウクライナの存在の正統性を根本から否定するものだ」と糾弾する一方、「言葉を注意深く選ぶ」とのべ、「今回の侵略にロシア国民は責任を担っていない」と指摘しました。

また「プーチン大統領とその協力者が引き起こした戦争は、不当で、残酷で、将来に何も生み出さない」と批判し、ロシア軍のウクライナ侵攻の停止と、ウクライナからの撤退を求めました。

書簡には、天野浩氏（物理学賞）、白川英樹氏（化学賞）、利根川進氏（医学・生理学賞）、本庶佑氏（医学・生理学賞）、カズオ・イシグロ氏（文学賞）、根岸英一氏（化学賞）、大隅良典氏（医学・生理学賞）、山中伸弥氏（医学・生理学賞）らも名前を連ねています。

## G7学術機関 共同声明

### 核心的価値観への侵害

ロシアによるウクライナ侵攻をめぐって、日本学術会議など主要7カ国（G7）の各国を代表する学術機関が2日、ロシアの指導者に対して、ウクライナへの軍事行動を直ちに停止して戦争を終わらせるよう求める共同声明を発表しました。

声明は、ウクライナへの攻撃について「国際法と人類の核心的な価値観へのあからさまな侵害だ」と指摘。ロシアの侵略は、学問の自由や科学的交流・協力の破壊となる当面、恐怖主義、自国決定の基本原則に対する攻撃だと批判しています。

ウクライナの人々に深く同情し、ウクライナ国立科学アカデミーの支援を決意。ウクライナの科学界との連帯を表明するとともに、この攻撃を恥じて戦争反対の声をあげているロシアの科学者や市民がいることにも言及しています。